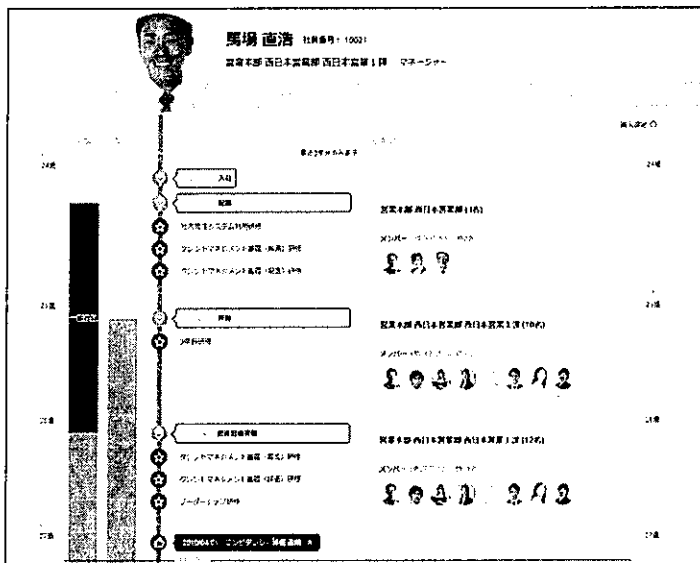




ひまわり

きらぼし銀行

行員の適性を可視化するクラウドサービス



タレントマネジメントシステムのプロフィール画面イメージ。

きらぼし銀行は、2019年5月からサイダス社の人材情報クラウドサービス「タレントマネジメントシステム（行内愛称はスターボックス）」を導入している。その特長は、職位や配属履歴など人事部が保有する情報のほか、行員本人が任意で自己紹介や趣味といったプロフィールを開示し、他の行員は自分のスマートフォンなどを通じて

これらの情報を自由に検索し、交流できる点だ。また、SNSのような掲示板機能により、行内の自主的なコミュニケーション活動の共有もできる。外部の「適性検査」と連携した分析機能も備えており、全役職員の個人の資質や特性をアセスメントし、結果を受検者本人に還元している。自身の性格や行動特性を「見える化」し、自己

理解を深めることで、強みや弱みを意識した自覚的行動を促しているという。適性検査では、個人の適性評価結果をもとに「相性分析」も行える。具体的には、上司の「マネジメントタイプ」や「行動特性」が、部下の苦手とするタイプに該当するかどうかといった点に基づき相性が判定される。表面的な分析では関係性が悪化するリスクもはらむため、人事部がファシリテーターするセミナーで分析結果の乱用を防ぎ、「心理的安全性を高めた対話によってチーム力を高めている」（経営企画部の吉田裕幸部長）。相性分析を利用したセミナーは募集制で、現状の利用実績は本部と営業店合計で5拠点のみだが、「行内の口コミで効果が広まり、相性分析を希望する店舗が増えてきた」（吉田氏）という。

東京きらぼしフィナンシャルグループは中期経営計画で「対話」による顧客理解をビジネスモデルに掲げる。顧客という他者を理解する前に自分たちを対話によって理解しようとする試みに、他行から問合せが相次ぐ。（鈴木）